

第5回アジア文化交流懇談会 議事要旨

日時：平成25年9月30日（月） 15時20分～15時50分

場所：首相官邸2階小ホール

出席者：

（有識者）

山内 昌之（座長）	東京大学名誉教授
井上 弘	日本民間放送連盟会長
猪子 寿之	チームラボ代表
北野 武	映画監督、俳優、タレント
迫本 淳一	松竹株式会社代表取締役社長
知花 くらら	モデル、WFP 国連世界食糧計画オフィシャルサポーター
鳥井 信吾	サントリーホールディングス株式会社代表取締役副社長
長谷川 三千子	埼玉大学名誉教授
宮廻 正明	東京藝術大学教授、日本画家
森田 健作	千葉県知事、俳優

（政府）

安倍 晋三	内閣総理大臣
菅 義偉	内閣官房長官
加藤 勝信	内閣官房副長官（政務）
世耕 弘成	内閣官房副長官（政務）

議事概要（※プレス取材は冒頭から下記2. まで）：

1. 安倍総理の冒頭挨拶

懇談会冒頭、安倍総理より「『アジアの新文化創造』の実現は政権の新しいアジア政策の柱の一つであり、本日、提言を受け取り、委員の話を聞くことを楽しみにしていた」旨、御挨拶。

2. 提言の提出

山内座長から安倍総理に提言が提出された後、山内座長から提言の内容につき、以下のとおり説明。

- ・アジアとの交流は「融合と調和」をテーマに進めていくべき。
- ・ASEAN、アジア各国はもっと日本から発信が行われることを期待しているが、その実施姿勢は「日本らしいやり方」とすべき。「日本らしいやり方」とは、異なる文化を敬意を持って尊重し、理解していく、対等な立場でのパートナーとしての「調和」と、その異なる文化が交じりあい、新しい価値、文化が生まれること、発信

されている「融合」が現れる、そのような関係の構築。

・上記の日本的なアプローチで、東南アジアを中心とするアジアとともに、手を携えて、未来に向かって進んでいく、「To the Future Beyond the Horizons」という考えが重要。

・その考えを実現していくために、具体的な施策案を挙げた。特に重視すべきことは、広い意味での「芸術・文化の交流」及び「日本語学習」に対する支援。

・こうした施策を、中長期的に継続して着実に実施してっていくことが大切であり、しかるべき予算措置、体制の整備をお願いしたい。

・アジア各国の首脳、有識者たちは、強い期待を抱いている。有効な政策が立案、実施されることを強く希望する。

3. 各委員からの補足発言

・アニメを、文化交流、観光招致、日本を知ってもらうために活用すべき。

・地方は、地方同士の交流のチャンネルを持っており、地方をうまく利用・活用頂きたい。オリンピックを念頭に、東南アジア向けに旅番組を製作するので、政府には放映枠を確保いただければ幸い。

・日本語教育については、現地からも拡充強化に対する切実な要望がある。知恵も出しているが、予算が不足しており、是非政府にお力添え頂きたい。

・日本とASEANとの関係は、第2ステージに入っている。これまでは、知的交流、思想交流に臆病であったが、東南アジアには、見識ある優れた知識人が居り、今後、同分野での交流を拡大していくべき。

・現地視察を通じて、タイなどで、東南アジアの活気を感じた。ファッション面では、デザイナーなども若い世代が元気であった。日本との双方向の交流で、そのエネルギーが日本にも流入し、ともに未来を作っていく基盤となれば望ましい。

・本日の提言とは別の話であるが、7年後の東京オリンピックは、アジアの人たちの協力を得て、アジアのオリンピックとして盛り上げてはどうかと思う。アジアには、花火を使うアーティスト等、さまざまな優秀な専門家がいる。日本のアーティストだけでなく、アジアの芸術家を集めて、協力して、やればよいのではないか。

・昨日(9月29日)、「日越国交樹立40周年スペシャルドラマ」として、日本とベトナムの共同制作ドラマが放映されたが、これからも、交流要素を持つ、優良な放送コンテンツの製作努力を続けていく。

・東南アジアは、平均年齢が若く、これからの新しい国々であると認識。インドネシアの副大統領を表敬訪問した際、同席した先方スタッフはiPadでメモを取っていた。若いアジアは新しい時代に入り、美意識や価値観が変わってきていると感じる。今後は若い世代にも通じる手段・方法で交流を進めていくべき。

- ・文化交流政策は、単発ではなく、息長く続けることが重要。
- ・日本とアジアの間の交流だけでなく、アジア域内交流も重要である。提言3.の「アジア文化交流諮問委員会（仮称）」はそのプラットフォームになりうる。
- ・文化の伝播は、「受容」で寛容に多文化を受け入れ、「真似」をすることで学び、「変容」することで独自色を加えていく、という段階で広がりを見せていく。日本は、海のシルクロードで伝播したアジア各地の文化を今でも受け継いでいる面があり、これを元々の発祥地であるアセアンに返還することができる。
- ・ミャンマーのバガンの仏教遺跡も劣化が進んでいるが、遺跡保存、修復の高い技術を持っているのは日本であり、その役割は重要である。

4. 安倍総理の閉会挨拶

- ・日本は、デフレにより経済が縮小し、海外との結びつきも弱まってきたが、まずは、ASEAN を中心とするアジアで、しっかりと日本のプレゼンスを取り戻す必要がある。
- ・やり方として、考えておくべきは、アジアは、独りよがりにならずに、お互いのふれあいの中で交流し、「融合と調和」のバランスをとりつつ、活力を持ってきたということ。アメリカの例を見ても多様性が活力となっており、アジアの文化がひとつでなく、多様性を有していることが力になる。日本がASEAN と関わることで、文化の多様性を活かし、ウィンウィンの関係を築けると思料する。
- ・12月の日ASEAN 特別首脳会議の際は、多くの首脳が東京にやってくる。その時に、しっかりと、「芸術・文化の双方向の交流」「日本語教育支援」という提言の中心的テーマに則って、政策を打ち出していきたい。
- ・懇談会の期待に応えるべく、懇談会で打ち出して頂いたコンセプトを踏まえてしっかりと対応していく所存である。

(以上)